

山 野 中学校区	校番	福山市立 山野小 学校
最終更新日		2019年(平成31年)4月1日

I 福山市

ミッション：福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン：「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 小規模校の特性を上手く生かして、子どもをしっかり鍛えて力をつけてくれている。その姿は、勉強でも結果をだし、文化祭等の発表においてもしっかり見ることができている。	児童の現状 地元の子は少なく、町外からの転居者やバス等の通学者。集団になじめず、少人数で学習する環境を求めて本校に転入してきた子どもいる。社会性や学力に課題がある子どもいる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	○問題解決力 ○幅広い人間関係を築くコミュニケーション力 ○協調性・柔軟性 ○チャレンジ精神 ○確かな学力(問題解決力：基礎学力に支えられた思考力・判断力・表現力)を身に付けた子ども ○豊かな心(協調性や柔軟性のある幅広いコミュニケーション力)を身に付けた子ども ○自らたくましく生きる(夢や目標の実現に向けて主体的にチャレンジする)子ども ○個に応じたきめ細かい丁寧な指導の徹底 ○ドリル学習等の反復学習により基礎基本の定着を図る取組 ○幅広い思考力や表現力を育成するための思考・表現活動の充実 ○地域等のふるさと学習の充実
---	--	---	---

III 自校

ミッション 小・中学校が地域と一体となり、少人数の良さを最大限に生かし、個に応じたきめ細かい丁寧な指導の充実により、個の力を一層伸ばし、中学校に進級してより自己実現が図れる等、地域に誇れる学校となる。	学校教育目標 確かな学力と豊かな心を持ち、自らたくましく生きる子どもの育成	現 状 <児童生徒> 小人数指導による個に応じたきめ細かい丁寧な指導を通して、学力の定着・向上に取り組んでいる。 また小規模校が抱えている狭い人間関係の中において、幅広い人間関係づくりや表現力に課題があり、様々な行事や地域の方を招いての交流や体験活動等に積極的に取り組むことが重要である。 <授業> 「少人数の学びの創造」をテーマに、年間を通じて小中合同授業研究に取り組み、同じ視点で授業の改善に向けて進めている。しかし少人数であるがゆえに、思考が深まらなかったり、表現活動に不十分な点も課題としてある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 5・6年	問題解決力 疑問に対し、自分の考え持てる 疑問に対し、様々な考えをあることを知る 疑問に対し、いくつかの視点から物事が考えられる	コミュニケーション力 友だちと仲良くする 進んで友だちをかかわる 友だちや地域の人と積極的にかかわる	協調性・柔軟性 人の話を聞くことができる 人の気持ちを知ることができる 人の気持ちになって考えることができる	チャレンジ精神 好きなことや得意なことに取り組む 好きなことや得意なことを増やす 好きなことや得意なことに積極的に増やし、自信をつける
研究 教科等 主題・内容等	各教科、及び「総合的な学習の時間」 少人数の学びの創造 ～幅広い思考力と豊かな表現力の育成～ ・少人数指導における個に応じたきめ細かい丁寧な指導の有り方 ・生徒が自ら主体的に授業に臨み、しっかり思考・判断・表現できる場の設定と、教師の発問の質の向上の有り方			めざす授業の姿 ・個々の児童の実態に応じた資料提示や発問により、児童の思考が深まり、自ら積極的に課題を解決しようと行動する授業 ・児童が意欲的に活動や表現する場面を構築し、児童が「分かった・楽しかった・先生に褒められた」等の自己肯定感を味わえる授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 山野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力を入れている	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れている	達成評価	総合評価	改善方策
3年目	確かな学力(問題解決力)の育成		継続	基礎学力の定着	個に応じた指導の工夫 ドリル学習の徹底	定期テストで個別目標の達成率90%以上									
2年目	豊かな心(柔軟性や協調性のある豊かなコミュニケーション力)の育成		継続	ふるさと学習の充実	地域を知るための調べ学習の継続	児童アンケート肯定的評価80%以上									
2年目	自律してたくましく生きる(夢や目標に主体的にチャレンジする)力の育成	★	継続	自己肯定感や自己有用感の育成	異年齢集団や地域団体との意図的な交流活動の充実	児童アンケート肯定的評価80%以上									
3年目	授業改善の充実		継続	分かる授業の充実	ゴールと学習過程の明示化 個の実態に応じた授業展開の工夫	児童アンケート肯定的評価80%以上									
4年目	保護者地域に信頼される学校づくり		継続	保護者・地域の学校信頼度の向上	地域行事への積極的な関わり(児童生徒、教職員の参加)や、学校教育活動に地域の方々に協力してもらおう場を持つ。保護者への学校便りなどで情報発信	地域行事への参加状況や学校だよりなどの発行									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。